アナウンスの基本

１に取材・２に取材

　アナウンスは校内の明るいトピックスを伝えるものです。そのためには自分の頭の中だけでは原稿は完成しません。想像の産物ではないのです。テーマを決めたらそれに沿って取材をしましょう。校内の生徒・先生はもちろんですが、校外に飛び出して取材するのも有効です。そしてたくさんの材料から、取捨選択して原稿を完成させましょう。

自分の言葉で原稿を書こう

　自分の持っているボキャブラリーの中で話すのは当然ですが、発声しやすい言葉にどんどん変えていきましょう。
　ただここでいっているのは、そういうことだけでなく自分の心からでてくる気持ちを言葉にすることが大切です。これは他人や、教員が指導できるものではありません。そのためには気持ちの「のる題材」を見つけましょう。
　原稿は、「リード」「本記」「雑感」「シメ」の四つの部分で出来ています。
　「リード」は内容をストレートに伝える。５～１０秒程度です。「本記」は事実をしっかり伝える。３０秒程度。「雑感」は取材した声を載せる。３０秒程度。「シメ」は呼びかけ。取材した内容からみんなに伝えたいことを書きます。１０秒程度。これを目安に原稿を書いてみてください。

自分の主張ではなく、みんなの声を

　取材をろくにせずに、前から考えていた自分の考え（主張）を蕩々と述べる人がいます。これではいけません。アナウンスは「青年の主張」や弁論大会ではないのです。取材したことをきちんと伝える、これがアナウンスです。ちょっとずるいテクニックですけど、どうしても自分が伝えたいことがあるときは、その事柄を「人にいわせる」ような取材をしましょう。

伝えたいことは一つにしよう

　取材していると、あれもこれも盛り込みたくなります。しかし時間は１分２０秒程度。とても短いです。いいたいことは一つに絞りましょう。二つ以上のテーマは聴いている人が理解できません。
　また原稿は４００字程度にするのがよいでしょう。

基本は「校内放送」

何をテーマに、誰を対象に、話しているのかわからない人がいます。基本は「校内放送」。ですから対象は自校生徒。自分の学校の話題を考えればよいのです。これが基本ですが、これだけでは発展性がありません。「校内放送」の形をとりながら、外に訴える内容がよいと思います。

明るいトピックスを

暗い落ち込むようなテーマを持ってくる人がいます。そういうテーマをうまくまとめて、一般性のある話題にできれば、それはそれで上位にいけると思いますが、一般的な方法とは言えません。普通はまず、「明るいトピックス」を考えましょう。植物の話題や、部活動の話題など学校にはたくさんテーマが転がっていると思いますよ。また、普段からエポックメーキングな出来事があったら、取材をしてまとめる習慣をつけましょう。

例「学校が２学期制になった」「海外修学旅行に行った」「全国大会で上位の成績を修めた人がでた」「新聞で紹介されるような生徒（先生）がいる」

スピードは「自然に話す速さ」で

ラジオ・テレビをよく見ている人は NHK と民放では話すスピードが違うことに気づいていると思います。NHK は比較的ゆっくり、民放は早口です。高校生はどうしたらよいでしょうか。人に伝えるためには心持ちゆっくりがよいと思います。しかしゆっくり過ぎると違和感が、かなりあります。人に聴いてもらって、内容が伝わる「自然に話す早さ」を身につけましょう。TV のニュースを参考にしてもよいでしょう。また自然な早さで内容を理解させるためには、原稿にも工夫が必要です。わかり易い言い回しにする、省略形を使わない、展開を複雑にしない。等々。参考にしてください。

また、原稿の書き方もコツがあります。もちろん提出用の原稿は決まりがありますので指定の様式に従ってください。しかし自分が読む原稿は自由に書いてかまわないのです。読みやすい原稿の書き方に「ちどり書き」というものがあります。縦書きで、「読みの固まり」ごとに、段落を下げていく書き方です。こうすることで、一息で読むべき固まりが解り、内容把握も容易になります。一度自分の原稿を書き直してみてはいかがですか？

ラジオを聴こう

良質な番組は参考になることが多いです。番組づくり、取材方法、アナウンス技術等吸収できるものはどんどん吸収しましょう。私が参考にしているのは　TBS 朝６：３０スタンバイ　夕方６時 NHK ニュース等です。